

[29-1]

DD夏季合宿
860821

最近の研究動向からみた資料分析の問題点

ロ羽益生

1 異文化社会研究の近年の特徴

1) フィールド・ワークに基づく「よい記述」とは：人々の日常生活の諸過程の背後にひそむ意味を読者に理解させることによって、全体の固有な性質と諸条件の変化に対応して展開する全体の変化の方向性をほのめかすようなもの (Marcus & Fisher, Anthropology as Cultural Critique, 1986.)。

(1) 従来の方法：ある文化的要素または制度・慣行を全体的な脈絡の中に位置づけ、それと他の諸要素の相互連関を体系的に示すこと (functionalistic holism)。

e.g. : key institution (稲作、ハーナーディ、tham bun) の分析、
emblematic performanceの分析、構造的連関の分析 (親族 x 宗教儀礼・観念 x 政治的党派)

(2) 1960年代から80年代にかけての視点の変化

(i) functionalistic holism から心的側面の理解 (native's point of view, his vision of his world) への視点の移行。[機能主義的分析の一般化と精密化]

[村人の固有な考え方の理解：言葉、行為、意見、解釈、感情表現、態度から臨床推理的に背後にある意味世界の論理の解明→解釈学的理解]

(ii) native point of view の抽出によって、その社会における文化体系の固有性を確認し、文化的固有性の社会的行為 (経済・社会生活) に対する影響や諸条件の変化に対応してその固有性による生活の変化の方向性を見る。あるいは文化的固有性それ自体が社会経済的な変動に対応して、どのように変化するかを

見る。

3) 文化的固有性を理解するための一つの鍵

- (1) 「人」(personhood) は、村人によって、どのようなものであると考えられているのか。
- (2) 「人」は、さまざまな状況において、どのようなものであり、何をなすべきであると考えられているのか。それはどのような意味においてであるのか。
(the systematic indigenous theory about the nature of personhood)
- (3) 村人は、一方において自らの合理的な計算に基づいて、外界に適応するが、他方同時に自らの生活世界(生活秩序)のイメージに適合するような方法で適応するように努める。[ここに固有な文化の影響がみられる。意味の世界]

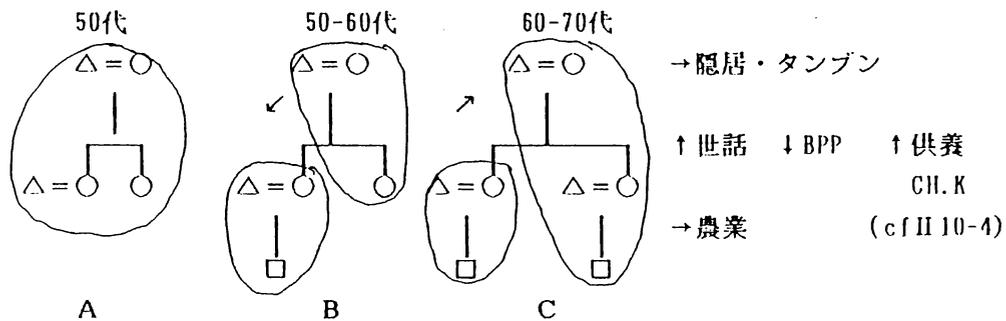
2 DDの事例分析における若干のメモ

1) ライフ・コース(「人」の模索)

男性→得度(自覚)→成人→タンブン(功徳を積む) [再得度](I-V-72)

女性→タンブン→子供の世話→子によるブンの転送と援助 [II-10-2, 10-1, DAS]

「男は靱米、女は白米」



2) 近親共同(形成)の原理 [水野]

- (1) 個人の相対的独立性 → 「二者間の累積体」 → 「損得相互依存の感覚」 → 計算性
- (2) 共同感情 → 「相手を思う気持：間柄の論理」 → 「仏教道徳」

3) native point of view

(1) 近親(sum)の世帯間共同

① 計算性

② comfortable relations (a homelike atmosphere) → 共住(親・娘) → 日常的交際(孫の二重所屬) [DAS]

③ 相互に期待される互助規範 → 保護・援助・返礼 → HNK、農地の貸借

④ 相続(muun sin som saang) → 親から子に相続される財 → 近親間(sum)

⑤ 宗教的に強調される互酬性

A) タンブン → 個人の来世のためのもの

B) ブンの転送(回向) → 他界した近親・親、特に母親カーノムソット
供養、息子の得度

C) ブンのシェア(近親 → 村 → 同朋) キンカオ・キンブン

D) これらの観念の表現(cultural performance)としての儀礼 → 行列・ダンス・読経

◎ 共同感情・互助的献身を支えている背後の論理(意味の構造)の抽出

4) 互助の基本財としての水田と米 → 経済的互助・援助・タンブンの基本財

◎ 確保することが望まれる基本財

5) 変動を見る場合の経済的・非経済的側面の関連性

| | |
|--------------------------|---------------------|
| 開拓 → 稲作不安定性? → | (交通の便) |
| 経済的対応 → HND、出稼ぎ、ケナフ etc. | → 経済的基盤の拡大 |
| 文化的対応 → HNK、宗教的互酬性の強調 | → 現金・貸金収入の増大 |
| 1930~40 | → 経済的基盤の拡大のための互助 |
| (祖霊信仰 → 民俗仏教) | → ワット・パー |
| | (物質主義・個人主義、互助精神の脅威) |